

カザグルマが咲きました

フレントリ館への進入路脇で、カザグルマが大輪の花を咲かせました。今年の夏、藤井さんご夫妻が植えてくださったものです。種子から育てられたようで、たくさん花をつける年季のはいった2株のほか、昨年発芽したばかりの株もいくつかあります。また、そんな若い株のそばでは、今年あらたな発芽が見られま



した。野生植物の種子にはたいてい休眠性がそなわっていて、同時に播いても1年おくれ、2年おくれと、数年にわたってだらだらと発芽することがめずらしくありません。

カザグルマはキンポウゲ科の蔓植物で、学名の読み方をカタカナで書くと、「クレマチス パテンス」。また、中国原産の近縁種テッセンの学名は「クレマチス フロリダ」。つまりクレマチスというのは属の名前で、同属の近縁種を交配させることにより、たくさんの園芸品種がつくられてきました。日本のカザグルマも、1836年にシーボルトが持ち帰り、園芸品種づくりの原種のひとつになっています。